

あいさつ

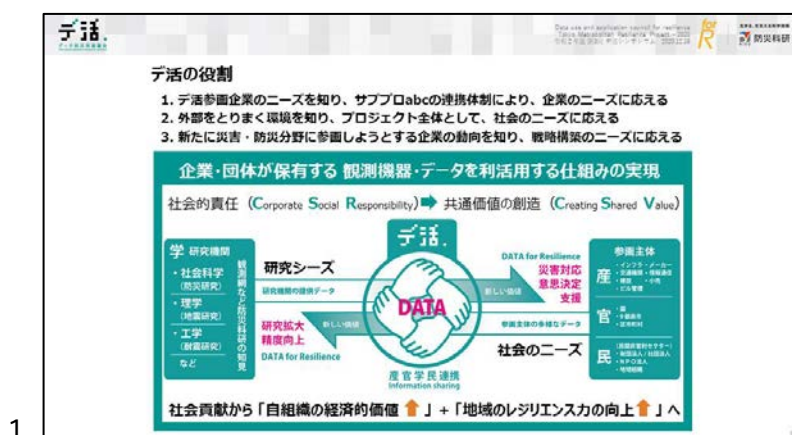
平田 直（防災科学技術研究所 首都圏レジリエンスプロジェクト総括 / 首都圏レジリエンス研究推進センター センター長）

本プロジェクトは「首都圏を中心としたレジリエンス総合力向上プロジェクト」（首都圏レジリエンスプロジェクト）といい、私はその中の「データ利活用協議会」（デ活）主催者の代表をしています。皆さま、本日のシンポジウムにご参加いただき、本当にありがとうございました。

本年度はデ活のシンポジウムをこれまでに2回、全てオンラインで開催してきました。本日も、いわゆるサイバー空間を利用したオンラインシンポジウムとさせていただきます。これはもちろん新型コロナウイルス感染症対策であり、対面では集会ができないためにこのような方式を始めたのですが、従来の方法よりも遠隔地の皆さまが参加しやすく、映像や音声を残して繰り返し見ていただけるため、大げさに言えば時空を超えたシンポジウムを開催することができると思っています。

本日も既に230名の方がZoom Webinarに入られ、YouTubeでも大勢の方に参加していただいています。全部で450名を超える方に参加を申し込んでいただいたので、だんだん増えていくのではないかと考えています。

「デ活」について簡単に説明させていただきます。室長からご紹介いただいたように、首都圏レジリエンスプロジェクト5カ年の4年目になりました。このプロジェクトでは、研究によって得られた防災技術のシーズと、民間・産業界・行政などが必要とする社会のニーズとを統合することによって、防災力を向上させるための新しい価値を生み出します（図表1）。そのキーワードとしてデータを利活用することが重要であるという趣旨で、このシンポジウムを初年度より毎年4回開催してきました。



本日は「大規模集客施設における防災力の向上を考える」をテーマとしています。昨年度は6月に発生した山形県沖地震、9～10月に発生した台風・豪雨などさまざまな災害がありました。今年も7月に豪雨が発生しています。新型コロナウイルス感染症、いわゆるコロナ禍において、複合災害が発生する可能性について考える非常に重要な契機となってきました。

本日はまず基調講演で永松先生から、私たちが理想とすることを実現するために、組織をつないで社会を守る技術の国際標準を例に紹介していただきます。「組織をつなぐ」ことが重要です。

続く第2部では、今まさに新型コロナウイルス感染症に対して水際対策の強化に努めている成田国際空港の取り組み、一昨年度の台風被害などの対応に努めている関西空港の取り組み、危機事案発生時に社会の動きを捉える活動をしているAgoopの人流データ利活用の例をご紹介します。そして最後に、全体で総合討論をしたいと思います。最後までぜひご視聴、ご参加いただきますようお願いいたします。